

# 京都大学ICTイノベーション2013 学内パネル展示 出展概要

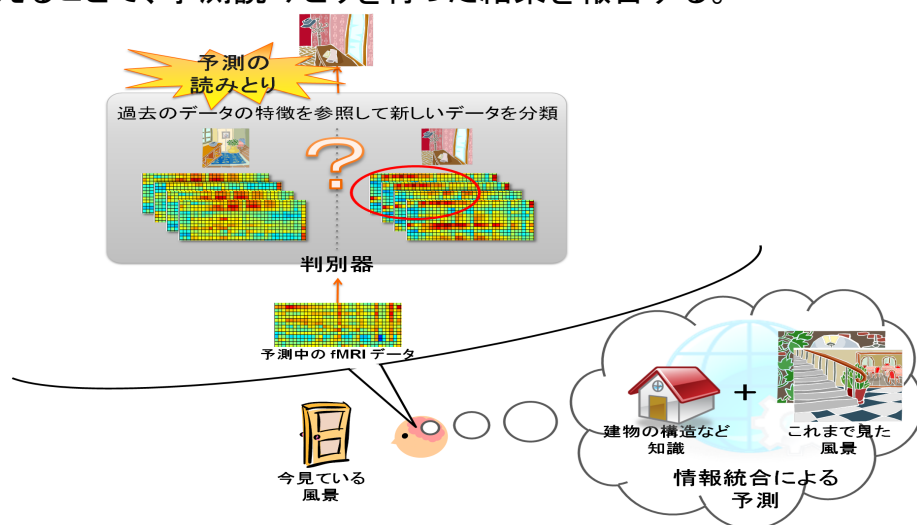
## タイトル

脳から「まだ見ぬ風景」を読みとる

Decoding forthcoming scene from human brain activity

## 概要

次にどんな風景が得られるのかを推量する「予測」は意思決定に重要な認知機能である。近年、脳活動からこころを読むマインドリーディングへの期待が高まっており、本研究では、ヒトが推量した次の風景を読みとる技術の開発を進めている。提示された一連の情報を統合して次の風景を推量する予測ゲーム中の脳活動を核磁気共鳴画像法(fMRI)により記録し、風景ごとに変化する脳活動の特徴をとらえることで、予測読みとりを行った結果を報告する。



URL

## 産業界への展開例・適用分野

予測のように、脳内で起こる情報統合の経過をモニタリングできれば、個人の情報処理を手助けする技術への応用が期待できる。教育において、問題を解く過程の脳活動をモニタリングし、どこにつまずきがあるかを発見、効率的な指導に活用する、車の運転のように、とっさの判断が必要なシーンで、運転手の考慮していない事故要因をカーナビなどの装置を利用してあらかじめ警告する、といった展開が考えられる。

## 研究者

	氏名	専攻	研究室	役職・学年
展示担当者	鹿内友美	システム科学	石井研究室	博士2回生
	石井信	システム科学	石井研究室	教授